



ひとう



海援隊旗(二曳きの旗)

http://www.ryoma-kinenkan.jp

勇 猛 YUMO KAKAN 果 敢

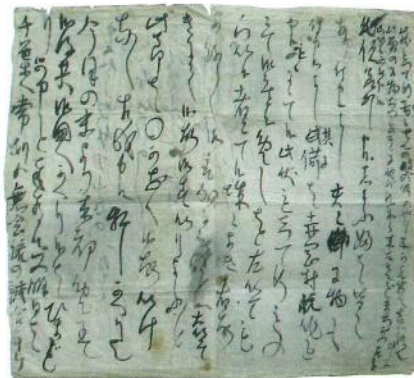
龍馬生誕180年記念企画 「龍馬の良き理解者」 「坂本家・家族の絆」展

江戸留学、脱藩、倒幕...と、時代の挑戦者として既存の価値観や人生を塗り替えていく龍馬。そんな次男坊を家族は時に心配し、怒り、叱咤し、しかし絶えず励まし応援していた。家族は強い絆で結ばれていた。そんな家族の絆の中で成長していく龍馬の姿を、坂本家(札幌市)から寄託、寄贈いただいた多くの資料などで紹介いたします。龍馬の心をこの企画展で感じてほしいと思います。

○坂本家伝来の資料

龍馬は手紙の中で、勝海舟を「日本第一の人物」「天下無二の大人物」と絶賛しており、勝は、龍馬をなかなか大した奴だと語ったエピソードも残る。勝海舟が龍馬の師だということは揺るがない。しかし、二人の間で直接取り交わしたものは見当たらない。そんな中で今回坂本家からの寄贈資料に面白いものがある。

龍馬死後15年、勝の龍馬追悼詩である。「君が亡くなって15年。その感慨ははかり知れない」とある。子弟の関係を越えた男と男、同じ目的に立ち向かった同志としての思いが伝わってくる。海舟ばかりではない。龍馬と交わった人々の声や、生き生きとした龍馬の遺族写真など、坂本家からの提供資料はそんな余韻にあふれている。



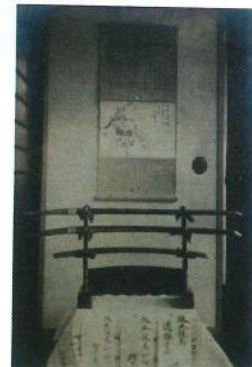
動画配信中! 安政五年七月頃、2度目の江戸剣術修行から帰国する直前の若い龍馬の手紙(浦臼町郷土史料館所蔵)

○若い龍馬・120年ぶりのお里帰り

24歳、若い龍馬の手紙を北海道・浦臼町が所蔵する。2度目の江戸剣術から帰国する直前、龍馬は姉・乙女に宛てて半紙裏表に用件を書き、帰国前の

○龍馬の愛刀、90年ぶりの公開

龍馬の刀が写った写真がある。坂本家が大正もしくは昭和初期に撮ったもので、龍馬血染めの掛け軸の前に3本の刀が写っている。すべてが「龍馬佩刀」である。上の2本は現在京都国立博物館



坂本家にあった血染めの掛け軸と三本の刀の古写真。今回展示するのは下段の刀

に所蔵されているが、下段のものは、86年間、世間から姿を消していた。最後に公開されたのは、昭和4(1929)年5月。東京・青山会館で開催された「土佐勤王志士遺墨展覧会」(郷土坂本家七代・坂本弥太郎出品)でのことである。弥太郎氏の控書には「龍馬が特に愛した刀」とある。その展覧会の10年前。没後50年祭の遺品展覧会では、「坂本先生幼時佩用の刀」ともある。弥太郎氏の三男に伝わり、関係者が所蔵している。今から510年前の室町末期。備前長船の名工、勝光と宗光の合作で、名刀である。展示期間は11月1日〜1月3日。お見逃しなく。



龍馬佩刀(個人所蔵)

前田 由紀枝

飛騰の紙面にスマホをかざして動画を見よう!

視聴方法は簡単!



- ① 右のQRコードから無料アプリ「COCOAR2」をダウンロード
② アプリを起動し、マークのついた写真にスマホをかざす

※端末の環境により、イメージが認識されるまでに時間がかかる場合や、正常に動作しない場合があります。
※本コンテンツは2015年12月31日まで閲覧可能です。



# 楽しみながら学ぶ龍馬の世界 建築・展示基本設計まとまる

本格始動！龍馬記念館リニューアル計画

明治維新150年、平成30年の開館を目標に進められている、高知県立坂本龍馬記念館のリニューアル計画が本格的に動き出した。核となる建築・展示の基本計画もまとまり、現在駐車場のある新館建設予定地には工事告知看板も立った。また、来年夏場からは地盤工事が始まり館は工事音に包まれることになる。



新館(左)完成後の龍馬記念館のたたずまい

線を意識した体験的な空間とする。同時に1階は図書コーナー、ショップ、また中2階にはカフェも置く。重要文化財の展示可能な博物館と子どもも遊べる体験館が空中の廊下で結ばれ一つとなるのが大きな特徴である。しかも場所は県下ナンバー1の観光地桂浜である。龍馬記念館が「龍馬の殿堂」として名実ともに高知県の観光の目玉にもなる。

## カフェにも注目

「シックな新館とカラフルな既存館。その取り合わせがまさに龍馬ですね。120人収容のホールからの発信、龍馬を感じた後のブレイクタイムのコーナー、そうです、中2階には待望のカフェも企画しています」

前田 由紀枝

## さらに充実、企画展

「これまで展示環境の問題で、他館の重要な資料を借りて展示することが出来なかった。自分の考える企画展がそのために出来なかったり、不十分だったりといったケースが少なくない。企画展の面白さ楽しさが入館者の数字にあらわれてきますから、これからは存分にやれます。企画展、乞うご期待です」

三浦 夏樹

## 受け入れ体制も万全に

「学芸員として気になるところは展示室と収蔵庫。新館には美術専用車がバックですっぽり入るトラックヤードが設置される。収蔵庫への専用ルー

ト、収蔵庫内の設備は万全です。京都国立博物館から龍馬の真物書簡が来る日も遠くないでしょう」

亀尾 美香

## 新たな「龍馬の世界」を

「ホールの実現は大きい。学芸員の企画展ことの「見どころ」レクチャーやトーク、座談会もできる。既存館の『海の見える・ぎやらしい』と結んで、龍馬の世界観の表現にも挑戦してみたい。学術とアートの融合による『龍馬の世界』です」

中村 昌代



博物館仕様の新館展示室(写真上)

## 84年ぶり一括寄贈寄託を受ける 坂本家伝来の龍馬関係資料 龍馬から坂本家に広がる

本年6月、郷土坂本家を継いだ坂本家(札幌市)から高知県立坂本龍馬記念館に数百点に上る同家が保存してきた龍馬関係資料が一括寄託、寄贈された。中には龍馬の通説に疑問を投げかけるような貴重な文書類もあるだけでなく、坂本直寛や直といった龍馬の甥たちの書簡類、軸、写真等もあり、坂本家を通じた今後の龍馬研究に大きな影響、展開を及ぼす史料として期待される。

## 坂本家とともにあった資料群

坂本家の資料群は、明治、大正、昭和、平成と坂本一族とともにあったものである。

明治31(1898)年5月坂本直寛一家が、翌年には直寛の兄・直の遺族が高知から北海道に渡って以来、道内を巡りながら時代とともに、坂本家が大切に保管管理されてきた。龍馬生誕180年の年にこれ以上の記念はない。

坂本家に伝わる龍馬遺品は昭和6(1931)年、郷土坂本家七代・坂本弥太郎(札幌市)が



恩賜京都博物館(現・国立京都博物館)に一括寄贈された。跡継ぎである坂本直行が、前年に札幌の実家を離れて開拓農民になるべく十勝に移ったことがきっかけで

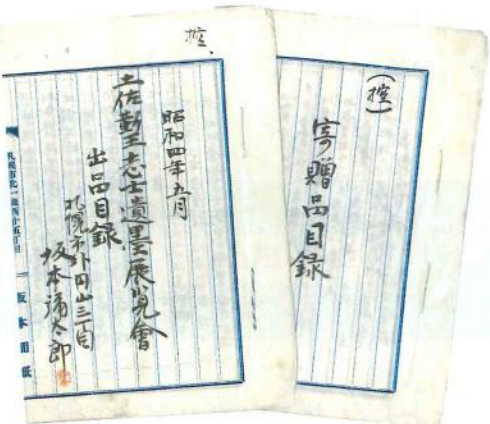
あろう。弥太郎は「龍馬遺品は重要なものであり、未来永劫守ら



な龍馬資料

## 龍馬談義に結論史料も

今回当館が受け取った資料群は、昭和6(1931)年七代坂本弥太郎が恩賜京都博物館に寄贈し、その後、重要文化財になった龍馬遺品に次ぐ同家の貴重な龍馬資料



なければならぬ」と判断したと思われる。

それらの龍馬遺品は一部を除き、井口家(暗殺時の近江屋)から寄贈された龍馬遺品とともに、平成11(1999)年、国指定重要文化財となった。龍馬が書いた下関海戦図は、寄贈後に同家から見つかり同館に寄託されている。



## 坂本家の歴史

と言えよう。例えば、大正2(1913)年12月26日、当時釧路にいた坂本家は同市の大火による類焼で龍馬遺品の一部を焼失している。また、その後世間から姿を消した遺品もある。それらがどういったものであったのか、ひとつの手がかりとなるような資料が見つかった。弥太郎の残した控え書「王佐勤王志士遺墨展覧會出品目録(控)」(昭和4年5月)と「寄贈品目録(控)」(昭和5年10月記、翌年寄贈)などそのついで。

また、龍馬を知る人たちの書で、没後15年に龍馬を偲んだ勝海舟、西郷隆盛、土方久元など5点、公文菊憊による龍馬ら七人の肖像画。龍馬関係写真(龍馬、権平、乙女、寺田屋お登勢など)10数点、坂本一族写真(直寛及びその家族写真ガラス版含む。坂本弥太郎とその家族など)一式、直寛や直の書簡類もある。

その目録の中には「坂本龍馬遺物：附記、千葉周作ヨリ受ケタル皆伝目録は全部焼失セリ 於釧路市」とある。全部焼失：「この一文からすると、龍馬が千葉周作から受けた免許皆伝書が一つではなかったことが推測されないか。龍馬の免許皆伝書として現代に伝わっているのは、長刀(なぎなた)の皆伝書のみである。そんなところから、龍馬は剣の達人か否か」という論議が長年続いている。そうした論議に今回の記述が一石を投じ

さらにその他、寄贈寄託者である坂本ツル氏(97)の夫で農民画家であった坂本直行のスケッチブックや画集約40点、「開鑿の記」アルバムや著書「開鑿の記」原稿なども、今後機会を見つけて展示紹介していくつもりである。

ただ、詳しい内容や点数については現在調査確認中であるが、今まで坂本家以外に出なかった資料もあるため、龍馬亡き後の坂本家の動きも合わせて鮮明になってくるはずで、大いに楽しみである。文末ながら、坂本ツル氏はじめ坂本家の皆様のご英断に心より感謝申し上げます。前田 由紀枝

新館建設の敷地に立った計画お知らせの掲示板



# 特集 第三回 終戦記念日に誓う！『日本の洗濯』 夏休み子ども・龍馬フォーラム

今年のテーマ  
『日本の洗濯』



「龍馬」入り校歌を歌う  
第四小学校の子どもたち

「龍馬」入り校歌を歌う  
第四小学校の子どもたち

「龍馬」入り校歌を歌う  
第四小学校の子どもたち

「龍馬」入り校歌を歌う  
第四小学校の子どもたち

## そしていざ！ フォーラム会場へ！

「龍馬」入り校歌を歌う  
第四小学校の子どもたち

## 龍馬クイズに挑戦！

「龍馬」入り校歌を歌う  
第四小学校の子どもたち

# 学校のいじめなくそう！ 広がる思い 身近な問題から世界の戦争まで 戦争はだめ！



新しい仲間と一緒に

「龍馬」入り校歌を歌う  
第四小学校の子どもたち

「龍馬」入り校歌を歌う  
第四小学校の子どもたち

## 今回のテーマは龍馬の手紙から『日本の洗濯』！

「龍馬」入り校歌を歌う  
第四小学校の子どもたち

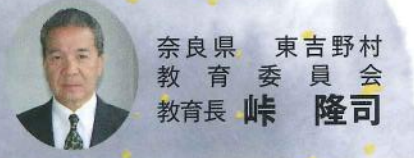
## オカリナの演奏

「龍馬」入り校歌を歌う  
第四小学校の子どもたち

「龍馬」入り校歌を歌う  
第四小学校の子どもたち



ホシヤミカコさんの「ふるさと」の演奏が流れて



東吉野村  
委員 隆司  
奈良県  
教育長 峠

# 天誅組ゆかりの地域との交流

歴史的な関わりが非常に強く、深いつながりがある、愛知県刈谷市と奈良県東吉野村の小学生の文化的な相互交流が8月に開催され、東吉野小学校5・6年生15名が、天誅組拳兵に参加した松本奎堂・宍戸弥四郎、伊藤三弥の生誕地である愛知県刈谷市を訪ねた。



交流会でのお別れセレモニーの様子

刈谷市に到着した小学生は、刈谷市役所7階において、歓迎を受け、竹中市長が刈谷市と東吉野村のつながりについて、平成25年に結ばれた「ゆかりのまち友好市町村の盟約」が書かれている銘板を提示し、子どもたちに詳しく説明された。

その後、「夢と学びの科学体験館」を見学、6グループに分かれ、亀城小学校の6年生の案内で、校区にある松本奎堂・宍戸弥四郎の生誕地碑等の天誅組史跡巡りをした。また、亀城小学校の茶室で、同校の児童による琴の演奏を聴きながら、児童の点てた抹茶をいただき、ドッチボール等で交流を深めた。

東吉野小学校は、以前から総合的な学習の時間において、自分が生まれ育った地域の歴史、風土、文化、自然等を理解し、愛し、地域や

社会に貢献できる人材育成を目的とし、児童自らの見学・調査・体験による「地域学習」で「天誅組」に関する学習を進めており、今回、天誅組ゆかりの地・刈谷市に足を運ぶことにより「地域

# 『確証バイアス』



学芸員の視点

視野を広く、歴史を考える  
社会心理学の言葉に「確証バイアス」という言葉がある。この言葉は、自分の論に対して都合の悪い情報には目を向けず、都合の良い情報ばかりを集めて自分の論を補強していく考えである。結果として、視野が狭くなり正しい評価ができなくなる。龍馬を語る場合、高く評価する人も全く評価しない人も、この傾向が顕著に見られる。

「世に生を得るは事を成すにあり」  
この言葉を龍馬の言葉と信じて座右の銘にしている方がかなりいる。しかし、この言葉は龍馬の言葉ではない。そもそも、この言葉の本当の全文を知って座右の銘としている人は皆無だろう。

最初にこの言葉を紹介した千頭清臣著『坂本龍馬』では、「軍中龍馬奔走録」として「世に生利を得るは事を成すにあり。人の跡を慕ひ、人の真似をする事なかれ。釈迦孔子の類、唐土の世々の天子も皆しかる事をせり」となっている。

私は千頭本とは別の史料で、原文に近い写しと思われるものを、個人の方に見せてもらったことがある。私が見た文章は、「世に勝利を得るは初めての事を成すに在り。人の跡を慕ひ、人の真似をする事なかれ。釈迦孔子の類、唐土の世々の天子も皆しかる事をせり」となっていた。

この史料を見るまで、私は千頭本の「生利」の読みや意味が分からなかったが、これは「勝利」の当て字だったのだ。そして、最初の一文の真ん中には、「初めての」という言葉も挿入されていた。これだと「人の跡を…」以下の文章とも意味が通る。

「軍中龍馬奔走録」には、「人を殺すことを工夫すべし」や「親子兄弟と雖も唯執着の私なれば、蠢虫（うじむし）同様の者にして、愛するにも足らぬ活物（いきもの）也」など、かなり過激で到底龍馬の考えとは思えない言葉も多数含まれている。

この件は、正に龍馬における「確証バイアス」の典型的な例である。龍馬ファンにとって都合の良い龍馬像に合わせ、言葉が解釈され、自分のイメージの龍馬と合わない過激な言葉には目を向けず、「世に生を得るは…」だけを龍馬の言葉と信じて座右の銘にする。

歴史を考える場合、「確証バイアス」は避けなければならない。

三浦 夏樹



全員質問

- ① あなたは龍馬のどんなところが好きですか？
- ② あなたは今、何を「洗濯」しなければならぬと思いますか？
- ③ フォーラムの感想を聞かせて下さい。

# みんなの声

# 龍馬生誕180年「終戦の日」に誓う！ 夏休み 子ども・龍馬フォーラム」を終えて



田中竜斗  
三里中学校3年

①自ら日本を変えようとしたところ  
②いじめをなくしたいかなければいけないと思います。  
③いろいろ知れていい経験になったので本当に良かったです。



森山航  
旭東小学校6年

①冷静に物事を判断できること  
②子どもの中の暴力だと思えます。  
③他の人の意見も聞いてこんな意見もあるんだなあと思って、自分の意見が変わり始めました。少しでも龍馬に近づけるように頑張りたいです。



西川実潤  
第四小学校3年

①家族を大事にするからおりようさんが好き  
②洗濯しないといけないと思うことはケンカやいじめをなくすことです  
③龍馬のことをたくさん知れてよかったです。



矢野草月  
第四小学校5年

①心が広いこと  
②学校のいじめです。  
③初めのうちは緊張していたけど後々打ち解けてきて楽になりました。



上西勘太郎  
城西中学校3年

①大政奉還を申し立てて、日本を洗濯したところ  
②原発再稼働についてです。  
③いろいろな人と意見交換できて初めは知らない人をいっぱい知れたので、いい経験になったし良かったです。



中野天晴  
第四小学校5年

①命をねらわれてまで日本を変えようとしてくれたこと  
②イラッとしただけで人を殺したり、罪のない人を殺す考え。  
③今日はいじめのことや龍馬のことをたくさん知ることができて、いろいろな考えがあったのでいろいろな人の意見を活かしてこれからも考えていきたいと思います。



山本安莉  
浦戸小学校6年

①日本をかえたいところが好き  
②万引きとかをしないことです。  
③龍馬のことが関係している人のことが知れて良かったです。



村田稜帆  
第四小学校5年

①日本を変えようとしたところ、命を犯されてもあきらめないところ  
②世界で戦争や人々の命が失われているのでそれを防ぐべきだと思います。  
③今日はみんなの意見を聞いて龍馬のことがたくさん知れたのでよかったです。



中田優菜  
初月小学校6年

①自分の意見を貫き、その思いを行動に変え、自分の道をつき進んだところ  
②人の命の安全の確保がされていないのに原発を再稼働させたことについてです。  
③このフォーラムで経験したことや活かしてこれからの人生、生き延びていきたいです。このメンバーじゃなくてもいいので、また龍馬フォーラムに参加したいです。



川村船詠  
土佐中学校1年

①自分の志を大切にしているところ  
②周りの反対をものともせず、自分の意見を貫き通したところ  
③戦争についてよく知らない若者だった歴史問題について興味を持ってない若者が増えていくこと。  
④フォーラムで、龍馬のすごいところが改めてよく分かりました。



上岡由佳  
城西中学校3年

①日本をおさめようとしたところ  
②憲法が消えそうになっているので消さないでそのまま守らなければならぬと思います。  
③龍馬は自分が考えていた面と違う面も持っていることが分かってびっくりしました。



仁井田紘季  
一ツ橋小学校4年

①人に対して優しい  
②いじめとかです。  
③前よりもっと龍馬のことが知れて良かったです。



西谷陽汰  
第四小学校5年

①日本をおさめようとしたところ  
②憲法が消えそうになっているので消さないでそのまま守らなければならぬと思います。  
③龍馬は自分が考えていた面と違う面も持っていることが分かってびっくりしました。



小野川ひな子  
嶺北中学校2年

①日本のために人事を尽くしたところ  
②世界で考えなければいけないことだと思えますが一番大事なのは命だと思えるので様々な生命について考えることが大事だと思います。  
③今日学んだことは龍馬さんについて深く考えることが出来たし、私は「戦争は天災ではなく人災である」という言葉がすごく印象に残りました。自分の意志を持って平和を守っていくことが大切だと思いました。



川神優香  
高知大学教育学部1年生

私は、坂本龍馬さんが大好きです。大きな事を成し遂げる事が出来る行動力に憧れています。龍馬さんが生まれ育った地で勉強がしたいと思いい、島根県から高知大学に入学しました。

## 「ひろみピーターソンさんからの激励」 ピースビルダーへの第一歩

今日のテーマは「日本の洗濯」。ものすごいタイトルだと思いました。私も自分で何を洗濯したいかを考えてきました。それは今の日本の政府です。憲法解釈を変えて戦争できるようにしようとする日本政府、またそれを反対していながらも何も行動しない多くの日本人。今は龍馬さんのように考えているだけでなく実行する時だと考えています。

今年6月、私は沖縄でひめゆりの記念館の館長さんにインタビューさせていただきました。若い人たちにメッセージをお願いしますと聞いた時に館長さんがおっしゃいました。戦争は「天災」ではありません。「人災」です。戦争を始めるのも人間だし、戦争を終わらせるのも人間です。そして、国は領土を守るかもしれないけれど、人の命は守りません。戦争を始めたら止められません。平和な時だけに戦争を止めることができるのです。

私の話は終わりますが、皆さんも今日は自分の意見をはっきりと堂々と話してください。それがピースビルダーとしての第一歩だと思います。では頑張ってください。

## どんな「洗濯」が必要か

成し遂げる事が出来る行動力に憧れています。龍馬さんが生まれ育った地で勉強がしたいと思いい、島根県から高知大学に入学しました。

大学では、小学校の先生になる為に勉強していますが、いつか育てる事になるであろう子どもたちと、龍馬さんの事を一緒に考える事が出来る事が素敵だと思いい参加させていただきました。

今年のテーマ「日本の洗濯」、自分の周りや今の日本の中でどんな「洗濯」が必要か、一緒に考えていきたいと思います。

- ①子ども同士のいじめや親による子どもへの虐待です。
- ②今回参加して自分以外の意見も聞いて凄く充実したフォーラムになったと思います。



和田桃佳  
伊野中学校1年

①日本の中心になって戦いやいじめをなくすこと  
②いじめや虐待です。  
③龍馬やいろいろな人のことを知れて良かったです。



石村栞遥  
初月小学校6年

①小さい頃いじめられていた龍馬が強くなるために自分で精一杯努力したところ  
②犯罪などをどうやって少なくしていくかです。  
③龍馬のことをたくさん知れたのでとても良いフォーラムになりました。



岡田大枝  
第四小学校6年

①勇ましいところ、勇気があるところ  
②戦争についてです。  
③龍馬を学びながらみんなと意見を交わすいい機会になったのでこれから生かしていきたいです。



吉岡あいな  
嶺北中学校2年

①心の視野が広いところ  
②安保法案の内容の一部の自衛隊派遣の考えを改めるべきだと思っています。  
③今日のフォーラムで20数名の方と意見交換できてとても良かったです。龍馬さんのこともたくさん知れて良かったし、私自身、意見を言うのが苦手だったんですが、今日さまざまな場面で発言できて変わったと思います。



松村紗奈  
浦戸小学校6年

①自分の力で日本を変えようとしたところ  
②浜などにごみがたくさん落ちていてそれをなくしてほしいです。  
③他の人達の龍馬の意見などを聞いてこれからの学校での歴史の勉強の時に龍馬が出てきた時に話し合いになるといいです、その時にも活かしていきたいです。



岡本優子  
旭東小学校6年

①自分の利益にこだわらずに、国のためにはたらき、決して人を殺して物事を解決しようと思えない、器が大きい心  
②大統領や議員になっている人々のこと  
③みんな意見交換しながら龍馬さんの生き方を学んで良かったです。



内濱大空  
第四小学校6年

①泣き虫だった子どもから勇ましい人物になるまでの努力・生き方・成長。勝海舟から学んだ船術をすぐ覚える習得力。まなざし、たくましさ、勇気、覚悟  
②子ども間のいじめだと思いい、いろいろな人の意見を聞いて、その意見を聞く中で龍馬さんの見方が変わるところも龍馬さんのでこのフォーラムに参加してすく良く良かったと思いいました。



仁井田恭佳  
土佐中学校1年

①一つの事に対して熱心で達成できること  
②今の憲法9条をどうするかについてです。  
③今回のフォーラムで龍馬のことなどを教えて下さってありがとうございました。ピーターソン先生から戦争のお話を聞いて、戦争は怖いなと思いい、これからはそんなことにはなっって欲しくないなと思いいました。



中山翔  
高知学芸中学校1年

①日本で初めての会社を作ったり、薩長同盟を成立させたりできる、勇気があるところ  
②日本の政府の人達は日本が戦争を受け入れて戦争するということに考えていること  
③坂本龍馬さんについての新しい知識や、自分が前から思っていたことが違っていたりしたのも分かったので、龍馬さんのようにたくましく生きていきたいなと思いいました。



筒井杏奈  
嶺北中学校2年

①男っぽいところ、勇ましいところ  
②戦争するところ  
③龍馬の考え方が深く知れて私も龍馬みたいな考え方をこれからしていきたいと思います。



町田成眞  
三里中学校3年

①日本を自らの手で変えようとした気持ち  
②沖縄の米軍基地です。  
③最初は龍馬はかっこよくてたくましいというイメージしか無かったけど、今日のフォーラムで、龍馬の面白いところや、いろいろな面が知れて良かったです。龍馬のよう話せる友達なども見つけたので、これからも龍馬を見習って活かしていきたいと思いいました。



政岡桜子  
窪川中学校3年

①他人の意見にまじめに耳を傾ける広い心。堂々と自分の意見を語る自信。自分よりも他人の意見を優先する志を持っていて龍馬を尊敬する  
②日本国内に留まらず国際関係の紛争や内戦など人種差別などを取り入れた国際問題などを解決しなければならぬと思いいました。  
③坂本龍馬のことはもちろん平和や戦争、そして私たちの身近で起こっているいじめなど、あらためてこれから自分が何をすればいいのか考え直すことができました。



# 540メートルを1000人握手で!

～桂浜龍馬像から記念館前シェイクハンド龍馬像まで～

## 参加方法

日時:2015年11月15日(日)  
6:30受付開始 8:30イベント開始  
受付場所:桂浜・坂本龍馬銅像前 ※雨天中止  
参加費:無料(申込必要)

## 「レッツゴー!ハンドインハンド」 お申込・お問い合わせ先

〒781-0262 高知県高知市浦戸城山830番地  
高知県立坂本龍馬記念館 イベント事務局(森・小島・佐々木・手島・濱田)  
TEL:088-841-0001 FAX:088-841-0015  
メール:ryoma@ryoma-kinenkan.jp

※件名は「ハンドインハンド参加希望」でご送信ください。  
お申込の際には「住所、氏名、年齢、電話番号」をお知らせ下さい。

## ●手筒花火

手筒花火とは、大きいものは10メートル以上の火柱が吹き上がる竹筒を、花火師が脇に抱えて仁王立ちで支え持つ花火です。数十秒の間、降り注ぐ火の粉を物ともせず放揚し、最後に手筒の底が「ボン」と破裂する爆音によって幕を閉じる、高知ではあまり見られない花火です。この機会にぜひご覧ください。

## ●レッツゴー!ハンドインハンド

今年も11月15日がやってきます。「レッツゴー!ハンドインハンド」は、人と人とを結びつけた龍馬のように、桂浜の龍馬像から龍馬記念館前のシェイクハンド龍馬像までおよそ540mを、シェイクハンドした人の鎖で結ぼう!という毎年恒例の早朝イベントです。

今年も龍馬生誕180年。この記念すべき節目の年に、龍馬の夢見た平和な世を未来へとつなぐ一員となりませんか?

### 握った瞬間何かが?

「手を握り合った瞬間、桂浜がしんと静まりかえった。握り合った手に確かに何かが走った。それが人間にとって大事なものであることはわかった。水平線を見ながら思い出している。冬の海ぜよ。」  
森健志郎 facebookより

# 3年間の子どもフォーラムを通して感じたこと

## 今日がスタート

# 「命の大切さ」「平和の尊さ」「行動に移す」



マイクを向ける森館長

子どもフォーラムを始めてから3回目の夏を迎えた。フォーラムのスタートは毎回同じ質問から始まる。「現代は平和だと思いますか」。第1回のフォーラムでこの質問に対し、半数を超える子どもたちが「NO」と答えたことに驚いた。私が小学生の頃、少なくとも自分の周辺は「平和」について考えることもないくらい平和だった。しかし今は連日、子どもや高齢者を狙う卑劣な犯罪や平和をおびやかすような政治的ニュースが繰り返され流れている。そんな状況に子ども達自身が危機を感じているのだ。そして子ども達たちの発言からは、その危機が年々高まっていることがよく分かる。そんな今だからこそ、子ども達と一緒に「平和」について考えていくことに、このフォーラムの意味があるのではないだろうか。

世界の情勢が刻々と変化する中で、龍馬の思いは今も変わらな。龍馬は「命」を大切にしたい。同じ日本人同士が戦をする。と、若者が命を無駄にする。ことを嫌。い、戦の無い世の中を願った。フォーラムの中で学芸員から、龍馬の行動や手紙に書かれたエピソードを紹介しながら龍馬の思いが伝えられる。今年も「龍馬さんのような行動力といじめを止められるような勇気を身につける」といった意見を聞くことができた。

第2回、第3回の子どものフォーラムで子ども達にお話をしてくださったひろみピーターソンさんの言葉「ピースビルダー」平和を願う行動する人。は、このフォーラムにまさにぴったりという言葉だ。このフォーラムへの参加を一つのきっかけとして、子ども達が命の大切さ、平和の尊さについて改めて考え、それらを守っていくために行動を起こしてくれることを願ってやまない。フォーラムはこの1日完結のものではない。この日がスタートなのだ。



見事なり龍馬サン 商店街によって歌謡を即興でアレンジして 演じた堀内さんの 最後の演舞会場 となった帯屋町商店街では思い出し



笑顔はリズムに乗って

今年も暑い暑いよさこいの夏が終わった。今年、4回目の出場を果たした我がチーム「桂浜龍馬プロジェクトぜよよ」も本祭2日間、無事、人がだすこともなく、華麗に踊りきった。

ただでも涙がでるような感動を全身で感じた。踊り子さんとの「体感に加え、傍で演舞をこぼれさせているお客さんとの「体感を感じることができた。貴重な経験をさせてもらったことへ感謝する」とともに、よさこい踊りの奥深さに気づかされた今回のよさこい本祭2日間であった。

そうした気持ちに思いを馳せている中、嬉しい話が舞い込んできた。

なんと、桂浜に全国のよさこい好きが踊れる場としてみんなが楽しめる場をという事で新たによさこい演舞場を新設する計画ができてきているのだ。

「ぜひ、桂浜で踊ってみたい」「桂浜でも本場のよさこい踊りを見てみたい」という声があがり、計画がもちあがったという。高知の魅力がさらに広げられる場として今後の期待が高まる今日この頃である。



迫力の堀内佳さん

# 今年もハンドインハンド開催!

合言葉は「つながりぜよよPROJECT」!

11月15日早朝、龍馬月間である11月の一大イベント「レッツゴー!ハンドインハンド」が今年も開催される。このイベントは、桂浜の龍馬像から坂本龍馬記念館前のシェイクハンド龍馬像までの540メートルを参加者の皆さんの握手の鎖でつなぐというもので、今年で4回目。龍馬生誕180年の節目の年である今年には、「1000人の握手でつなぐ」を目標に準備を進めている。



ハンドインハンドの様子(2013年)

「今年はこのハンドインハンドの他に「筆啓上、龍馬殿」と題し、参加者全員に、用意した土佐和紙に龍馬に宛てた手紙を書いていただく」と考えている。それを540メートルつなぎ合わせ、握手の鎖だけではなく、手紙に込めた皆さんの心もつなぎ合わせる。そしてこの手紙は坂本龍馬記念館の新館オープン(2018年1月1日)に展示する予定だ。

その他のイベントとして、大石神影流の剣術の演武があり、幕末の剣術を間近で見られ、体験することもできる。夜はシンガーソングライターの堀内佳さんのミニコンサートや、よさこいチーム「桂浜龍馬プロジェクト」の堀内佳さんのミニ

今年、4回目の出場を果たした我がチーム「桂浜龍馬プロジェクトぜよよ」も本祭2日間、無事、人がだすこともなく、華麗に踊りきった。



迫力満点の手筒花火(2013年)

## 飛騰の紙面にスマホをかざして動画を見よう!

## 視聴方法は簡単!

- ① 右のQRコードから無料アプリ「COCOAR2」をダウンロード
- ② アプリを起動し、マークのついた写真にスマホをかざす

※端末の環境により、イメージが認識されるまでに時間がかかる場合や、正常に動作しない場合があります。  
※本コンテンツは2015年12月31日まで閲覧可能です。





# 拜啓 龍馬 殿

131通

平成27年6月21日〜9月20日

龍馬さんに会いに、北海道（北見市）よりやとと来れました。さつきまで降っていた雨も上がりうれしかりです。私と龍馬さんの出会いは司馬遼太郎さんの『龍馬がゆく』からです。でもその前から知っていたような。前世ではお会いしているとは信じています。この日を、今日の日を励みにして、明日から又頑張ろうと思います。いつか逢えるように……

（6月26日 北海道 H・Y・C・Y 52歳 夫婦）

土佐の海は今日もあらだつております。風は強く、鳥は鳴き、誠に自然豊かな場所です。龍馬殿もお知り通り、あの水平線の向こうにはアメリカという日本と文化が違う異国があります。アメリカは今、中国（清）に南沙海を埋め立てられるという問題が起ころうとしています。ぼくは龍馬どのの志を受けつこうと思っております。この世から「龍馬」という名が消えない限り、あなたの志は受けつがれることでしょう。

（6月28日 岡山 R・N 11歳 男子）

私は貴方が好きで土佐に移り住み、貴方の偉業、貴方の吸った空気を感じ、貴方を学び、伝えたい！と志を持って土佐に来た。貴方を顕彰する人、団体は数あれど、真に貴方が好きで！と言っている者はほんの一握りで、皆地位や

名譽、金のことばかりでうんざりします。貴方の脱藩した意味が少しばかり分かったかもしれせん。ただ、坂本龍馬が好き！それだけではない。私は、龍馬好きなら、アイツはどうとか言っていないで、「シエイクハンドしや！」みんな仲良うせんといかんぜよ！

（6月30日 無記名 36歳）

時代は何度も変わり目を迎えました。再び変わりを迎える日本が正しい方向へ進むよう見守って頂きたいと思えます。便利な世の中に囚われず、美しい日本を守り抜けるよう、頑張る未来の子ども達を育てます。

（東京 H）

私は高校生の時に「いじめ」にあっていました。学校のクラス、部活動でも誰もまともに話をしてくれず、そんなとき父が「龍馬がゆく」を全巻買いそろえて読むように言われ、それまで本等読んだことなどなく、しかし毎日がつらくなって仕方がない時に「龍馬」を知り、勇気をいただきました。その後、勇気に関わった人物を読みあさり、そしてやっと龍馬さんの郷に来ることができました。また龍馬さんの兄貴分の武市瑞山先生のお墓参りもしてきました。心の拠りどころでし

た。ありがとございます。

（7月4日 千葉 T・S 60歳 男性）

十数年ぶりにあなたに会いに来ました。今日は初めて息子と娘を連れてまいりました。生まれ育った高知の英雄の手紙や資料にじかに触れ、子ども達は何を感じたのでしょうか。あなたをこの世界を、この子達は見ていたのでしょうか。次の世代を待つ子ども達をいつまでも見守ってください。

（7月23日 高知 T・S 47歳 男性）

太陽がさんさんと桂浜の海に降り注ぎ、白波が一層きわだつこの頃、いかがお過ごしでしょうか。空から見ては小学四年生のときで、もう八年前にもなります。今回、龍馬記念館を訪れたのは、学校のレポートで龍馬の手紙について調べることになったからでした。半年間、手紙と向き合いましたが、やはり本人の人格を知ろうと思うなら手紙が一番だと思えました。そして今日ここで現物を見るのができて良かったです。学校に戻ったら、今日見てきたことをみんなに紹介しようと思えます。ありがとございました。

（7月26日 静岡 E・N 18歳 女性）

いま日本は大きな岐路に立っています。どちらを選ぶかにしる、日本の子ども達、そして世界の子ども達がいよいよ良い生活を送り、地球全体が幸せになるように大人たちは知恵を絞ってほしい。私も鳥取から発信します。

（8月1日 鳥取 N・A 42歳 男性）

突然ですが、今日龍馬記念館でああなたの偉大さに改め

知の誇れる龍馬さんが大好きです。

（8月9日 京都 M・T 21歳 女性）

龍馬さんのお姉に送った手紙おもしろかったです。お龍さんの性格もめずらしいんですね。「龍馬がゆく」読んでみたくなりました。

（8月9日 韓国 22歳 女性）

歴史的な龍馬さんの姿ばかり学んできましたが、今日お龍さんやお姉さまとのつながりを知り、愛が深まりました。女性に支えられながら生きていらしたところも、とても素敵だと思えます。

（8月9日 京都 Y・N 21歳 女性）

あなたに初めてであったのは、約20年前、私が高校一年生の時でした。家庭の事情で不登校、引きこもりになっていた私に、生きる勇気、社会に出る勇気をもらい、その後、大検をとり、今では中学校の社会科の教師になりました。今までがんばってこられたのは龍馬様のおかげだと思っています。結婚し、2児をもうけ幸せに過ごしています。息子、娘にも龍馬様を話し、習い、成長してもらいたいと思っています。

（8月12日 滋賀 M・I 35歳 女性）

以前はシエイクハンド龍馬像ができる前に来ました。やはり熊本からだと同じく時間をかけて高知を回るの難しいのですが、あなたには会っておきたいとまたやってきました。僕ももうあなたが亡くなった年齢を越えてしまいました。人物的にはあなたの足元にもおよびません。龍馬さんを師とおおび、少しでも

近づけるようにしたいです。

（8月19日 熊本 M・H 35歳 男性）

桂浜の龍馬像、感動しました。子ども達の頃から近江屋で命を落とされるまでのいろいろな目にし、今までのイメージが大きく変わりました。今のこのきびしい時代に生きていたらどんなに国民思いのリーダーになっていたことでしょうか。今の日本を見たら龍馬さんがどう思うのか……。このすばらしい桂浜の景色を家族4人で見るのができ幸せです。

（8月26日 神奈川 M・S 58歳 女性）

### \*\*\*編集者より\*\*\*

日本全体の外国人観光客増加の波は、四国・高知まで届いています。大河ドラマ『龍馬伝』も放送された台湾からの団体のお客様はほぼ毎日入館されます。また、出口に設置している「47都道府県+外国 別入館者数調査」でも、H22年度に42位だった外国が、H26年度には24位という結果が生まれました。この「拜啓龍馬殿」にも外国からのお客様のメッセージが確実に増えています。このほど、ミュージアムショップの一部の商品説明も3か国語表記に変更いたしました。「龍馬記念館もグローバルぜよ！」と言ったところでしょうか。

尾崎 由紀

## 「龍馬さんへ思いよ届け！」



2015年、タイムカプセルに封印した年賀状



ポータルサイト龍馬街道と高知県立坂本龍馬記念館がコラボして、始まった「龍馬へ届く年賀状」。龍馬や10年後の自分、家族、知人への誓い・メッセージを年賀状にしたため、それが、元旦に、桂浜の坂本龍馬像前で行われる年賀状配達式で、龍馬像へ届けられる。その年賀状をタイムカプセルで10年間保管するこの企画、早いもので今年7年目を迎える。

振り返ってみると、この7年間、龍馬への年賀状企画も少しずつ形を変化させてきた。毎年のことだが、今回のテーマは「コンセプトは？デザインは？等々、年賀状企画を楽しみにしてください」とあるみなさんの期待に応えられるよう、いや、期待以上のものをお届けしたいと日夜悩み、奮闘する日々だった。

しかし、みなさんの龍馬さんへ思いよ届け！と送られてくるメッセージを見るとこの企画を続けてきて本当に良かったと思ってしまう。そして、死してなお、慕われ続ける龍馬の存在の大きさにいつも驚かされる。

今年も着々と準備が進んでいる龍馬への年賀状企画。今回はまた一味違った企画を準備中。ぜひ、今年の企画発表・発売（11月1日より事前予約開始）を楽しみにしてください。そして、7回目が終われば、再来年の2017年は龍馬暗殺150年。2018年は明治維新から数えて150年。龍馬にとっても日本にとっても激動の時代が終わわり、新時代が始まる。龍馬へ届く年賀状もこれに合わせて企画を検討中だ。それが終われば10年目を迎え、第1回目のタイムカプセル開封式が待ち受けている。

西本 有里

## ここは館長の部屋 森 健志郎

### 涙かくして拍手

チョッキにするか、背広を着るか。当日、直前まで悩んでいた。8月15日の「終戦記念日に誓う 夏休み子ども・龍馬フォーラム」で、司会役を担当するそのいでたちであった。衣装で悩むということは、やっぱり、フォーラムの前に緊張している表れに違いない。

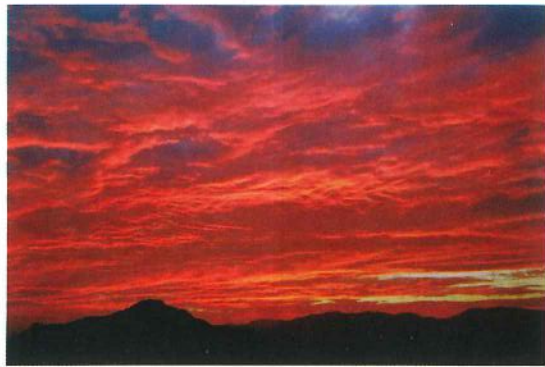
今年で3回目。ずばりテーマは「日本の洗濯」とした。昨今の日本の様子にはピッタリであろう。龍馬生誕180年、戦後70年の大事な節目年でもある。それだけに「龍馬意識が薄い」と陰口をたたかれる高知県のテコ入れの意味を込め、パネラーを県内に絞った。小学3年生から中学3年生まで13校の26人である。

龍馬の名前が登場する校歌を持つ「第四小学校」の子どもらによる校歌斉唱がフォーラムスタート。ここで気合を入れて「あなたは今、自分の周辺で、洗濯したいこと、しなればならない事がありますか？」と第一発目の質問を繰り出した。当然手ごたえあります。と第一だけに。皆さん目がきらきらと輝いていたので、マイクを差し出した。ところがいまいち食いつきが悪い。声が小さい。マイクをかわそうとする素振りの子さえない。ざわざわと会場のご父兄が息をのむ様子が伝わってきた。

とにかくほそほそ声なので、せっかくのいい意見が伝わらない。昼食後も変化なし。結果、司会の喋りが多くなる。まるで、一人芝居の雰囲気になってきて、ついには10分ほど学芸員に司会を代わってもらおう事態にまで至った。気が失せていく自分がある。高知の子等は情けない。みたいな泣き言さえ口走りそうに。それでも、じつと我慢できたのは彼らの真剣な眼差しが力を失っていなかったからだ。おれたちは口下手なだけなんだ。思いを分かちつてほしい。そんな風に理解して、いよいよ最終コーナー「一人ずつ今日のフォーラムの感想をのべてください」とマイクを渡した。

するとどうだ。「今日、私は人と人との繋がりを大事にする龍馬の心を学びました。ありがとございます。」「思いやりの心を忘れないようにします」「いじめをなくす」「龍馬に負けない行動力を！」などなど。別人の如く背筋が伸びたパネラーたちがそこにいた。小学生も中学生も。一人一人に会場から大きな拍手が起きた。立ち上がり拍手する人もいた。私もこみ上げるものがあつた。悟られぬように手が痛いほど拍手した。





「龍馬の心か？」



展示風景

## ■海に見える・ぎやうらい100回記念 「龍馬も見た夕焼けぜよ!」展を終えて

会場が夕焼け色に染まった島崎順也さんの「龍馬も見た夕焼けぜよ!」展は「海に見える・ぎやうらい」が2005年にスタートして、記念すべき100回目の展覧会でした。

様々な写真を撮り続けられている島崎さん（高知の面白いページ管理人）の夕焼け写真は、その瞬間を自然のままの色で切り撮ったナチュラルな作品です。龍馬が遊んだ鏡川やそこにかかる天神橋、桂浜、五台山からの夕焼けを見ていると、龍馬を育んだ純粋な土佐の美しさを感じます。

新しい朝を迎えるために、夕焼けが美しく暮れていく。“1日の終り、その日の区切りは、また新たなスタートを歩み出せる。”100回目の開催が、また新たなステップへと繋がってゆく。そんなメッセージが聴こえて来た、静かに心に残る節目の展覧会となりました。

今回は、夕焼けをパノラマの様に、皆様に自然に体感していただきたく、写真を出来るだけ大きく引き伸ばし展示してみました。今後も試行錯誤を重ねながら、より面白くクオリティの高い展示が出来ればと思います。 中村 昌代

## ■「第2回ハワイ・プナハウススクール高知研修における坂本龍馬記念館研修開催」報告

去る7月30日、高知研修のためハワイ・プナハウススクールの中高校生21名が、引率の先生3名と共に当館を訪れた。2013年7月以来、2回目の高知研修となる。米国ハワイ州を代表するプナハウススクールと交流が始まったのは、2011年、同校において高知県立坂本龍馬記念館主催のアメリカフォーラムを開催してからである。

一行は、7月18日から高知県入りし、約20日間の研修を行った。その間、土佐塾高校を交流校としてホームステイやキャンプ、土佐清水市なども訪れた。

当記念館での研修は、まずはシェイクハンド龍馬像と一人一人が握手。笑みがこぼれた。午前は館内を見学しながら前田学芸課長が龍馬について



カプチーノに感激

のレクチャーを行った。龍馬の文字で作る名刺は、かなりの関心を持って大勢が作っていた。

お昼は歓迎会を兼ねてカレーライスと龍馬カプチーノで昼食会。ココアパウダーで描かれた龍馬は、やはり大人気で、学生らしい感嘆の声があちこちから上がった。

午後からは、龍馬の銅像、桂浜を散策した。ハワイと高知の熱さはかなり違うらしい。真夏の太陽が照りつける、炎天下の中で、ハワイの学生たちは、何を感じ取って行っただろう。

最後に交わした挨拶と爽やかな笑顔の交流が、龍馬が望んでいた世界への発信・平和への絆として、いつまでも続いて欲しいと思う。 中村 昌代



シェイクハンド龍馬像と集合写真

### 入館状況

2015年9月20日現在（開館以来8,667日）

- ◆総入館者数 3,732,125人
- ◆最多入館 (2010年5月2日) 6,686人
- ◆最少入館 (2004年10月20日、台風のため) 8人
- ◆2015年度最多入館(2015年5月4日) 2,429人
- ◆2015年度最少入館(2015年6月17日) 114人

### 編集後記

龍馬生誕180年、終戦70年の節目の大事な年を迎えて、企画展、イベントが続く時期の発行だけに特集ページを組むことにした。特集のメインは8月15日の「終戦記念日に誓う 夏休み子ども・龍馬フォーラム」。よさこい報告も。本文は坂本家から多数の寄託、寄贈品報告から、それを受けて10月3日から開始の「坂本家・家族の絆」展には、めったに見られない龍馬の刀、手紙なども準備中。そんなわけで、頭を悩ました95号となった。(モ)

館だより「飛騰」第95号（年4回発行）表紙題字：書家 沢田 明子氏

発行日 2015(平成27)年10月1日  
 発行 公益財団法人高知県文化財団  
 高知県立坂本龍馬記念館  
 〒781-0262 高知市浦戸城山830  
 TEL (088)841-0001 FAX (088)841-0015  
<http://www.ryoma-kinenkan.jp>  
 「飛騰」に対するご意見ご感想などお寄せください

開館時間 9:00~17:00 年中無休

入館料 一般500円・高校生以下無料

身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者1名  
 高知県・高知市長寿手帳所持者は無料

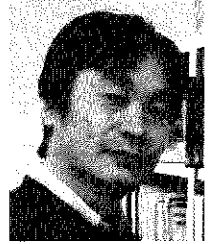
館だより「飛騰」は、郵送料のみのご負担でお届けいたします。ご希望の方は、92円切手5枚をお送りください



私のテーマ 元海援隊士 石田男爵の煮物好き

## 一集落活動センターなかやまの郷土史研究活動から

中村茂生 (安田町地域おこし協力隊)



「石田男爵は煮物が大好きじゃったと。中山へ来たときははいつつも煮物を食べてもらいよつたと聞いたことがあるぞね。」

男爵石田英吉は、安田町中ノ川(中山地区)出身で、海援隊士として龍馬とともに動乱の幕末を生き抜き、明治になって各県知事、元老院議員、農商務省事務次官などを歴任、男爵に叙された人物です。

### およそ2ヶ月の調査での貴重な手がかり

平成25年、安田町中山地区に「集落活動センターなかやま」が開設され、同センターに配属されているふるさと応援隊を事務局として特産品づくりや生活支援サービスなどに取り組んでいます。そういった事業の中に、地域の歴史や文化の継承も取り入れようと、中山地区で生まれ育った石田英吉の再発見を目指した調査・研究に着手しました。9月4日、その第1回報告会をセンターの会議室で開きました。冒頭に引いたのは、その会に来てくれた方が披露してくれたお話です。

脈の中でそこそこ注目されてきたと思います。その中で、石田英吉はやや地味な存在です。龍馬の残した手紙の中にはもちろん石田に触れた箇所もありますが、そこに特別な、例えば師弟関係、信頼関係が読み取れるほどのものはありません。一方石田も龍馬について何も語っていない。強いていえば『坂本龍馬伝』(千頭清臣著1914年 博文館)に協力者として名前が挙げられている程度です。龍馬亡き後の活動を見ても、石田が海援隊の中核にいたことは間違いありませんが、龍馬本人とは、案外距離があったのかもしれない。そんなこともあつてあまり注目されないのでしょうか。

### もはや我が隣人

石田英吉の生涯や業績を扱った文献も多くありません。でもおかげで、ここまでわずかに2ヶ月程度の調査にすぎませんが、すでにいくつか発見がありました。また明治以降、長崎、秋田、千葉などの知事時代の仕事についてはこれまでもほとんど知られていませんでしたが、今回各県の図書館、博物館、文書館の協力を得られ、相当な資料が集まりつつあります。

それでも何より貴重に感じられるのは、石田男爵の煮物好きというエピソードが聞けたことです。こ

れは資料調査で得られる種類の情報ではありません。煮物好きだとわかったところでもちろん歴史的な評価には何ら影響しませんが、故郷中山の煮物に舌鼓を打つ姿が脳裏に浮かべば、石田英吉はもはや我が隣人です。地元だけに伝わっているこのささやかなエピソードを、消え去る前に掘り取れたことは、中山地区の郷土史研究活動にとつては意義深いことです。

### 明治維新150周年に向けて

新しい発見や、明治以降の活動を含めた石田英吉の全体像は、平成28年4月を目標に、センター内に展示をつくって紹介する予定です。

ちょうど明治維新150周年に向けた観光キャンペーンもはじまりました。北川村の中岡慎太郎館はその拠点のひとつになるでしょう。そこを訪れるひとの大半は、国道55号線を東に向かうはず。その途中、安田川を約6キロ遡れば、集落活動センターなかやまがあり



安田町集落活動センターなかやま会議室で開かれた報告会の様子

ます。ほんの少し人の流れを変えて、寄り道してもらうことは難しくはないはず。となれば地区のみなさんには、展示解説でおもてなしをお願いしたいところです。県内外の観光客に石田英吉を知らしめ、その過程でわれわれは中山への愛着をいつそう深めていく、そうなることを願いながら、まずは調査を進め、報告会を重ねていきたいと思えます。



# 話題人 シンガーソングライター 堀内 佳さん あこがれの“龍馬”を歌いたい!

佳さんの熱い思いは、まさに龍馬からのメッセージのようでした。それは佳さんご自身の人生から生ま



佳さんの人生メッセージ

僕は賑やかにはやしたるような歌い方は好きじゃない。だからと言って、自己満足でもないかんね。大河ドラマの『龍馬伝』でも、福山雅治さんの言葉、いや作者の言葉でしようが(笑)、僕はそれを龍馬の言葉と思うて聞いていましたよ。口上は、そんな龍馬の言葉やその時浮かんた言葉を披露しました。それに歌っている、踊り子や周りの人たちという喜びや感謝の気持ちで起こり、言葉が自然に浮かんでくるんですよ。

「幕末カイダンジ」はいい歌だと思いましたが。歌詞がいい。今の世の中に対する思い。戦いではない。戦わずして平和な世にしようという龍馬の思い。森館長の考え方との共通点を見たいように思いました。森館長が記念館に来られてから、龍馬は以前から応援していたんです。森館長に「おまん、本気でやるかよ。龍馬は誰にでも乗り移るぜよ」と言われた。そう言われたからには、僕も自分の思いを伝えようと、歌詞がよさこい節に移る数秒の空間に緊張が切れないように「日本を今一度洗濯するぜよ」「恥を打ち捨てても世のことはなすべし」というような口上を入れたのです。その時のアドリブですよ。いい気分ですねえ。まことに龍馬気分せよ! (笑)

僕は生まれた時から光を知りません。1歳の時には目の癌(先天性網膜腫瘍)が見つかって両眼球を摘出。全盲となりました。視覚障害を持つ者は、でかい音を出されると状況が見えんのです。見える人だと、強い光を当てられていようかな感じでしょうか。よさこいの地方車は不安定でバリアが多い。だから、人に迷惑をかけたり手間をかけることになり、心苦しい。でもね、だからこそ、人とのつながりやありがたさを強く感じるんです。不便だから見えてくるものもあるんです。感謝という気持ちもそのひとつかな。

メッセージの力になっているのでしょね、それが。佳さんの笑顔を見てると、強く感じます。僕は中村市、今の四万十市の生まれです。8年前と7年前に両親は亡くなりましたが、今でもおやじの話をする時涙が出そうす。おやじは目の見えない僕にとことん厳しくて、本当に怖かった。小さな僕をそれはそれは厳しく育てましたからね。大人になっても、歌手になっても、と有名にならなからといって、「天狗にな



土佐の夏のメインイベント、今年の「第62回よさこい祭り」には全国から206チーム19000人の踊り子が参加し熱く盛り上がった。龍馬記念館など龍馬ファンでつくる我が「桂浜・龍馬プロジェクトぜよ!」チームもはや4年連続出場である。独特の踊りと歌、衣装にぐんと磨きがかかった。そしてもう一点。今年はプロ歌手、堀内佳さん(53)がマイクを握ることに。だから地方車には当初からの歌担当女性ボーカル二人と合計3人となった。華やかさはもちろん、堀内さんの声に沿道の人たちはしびれ、団扇をふり、拍手の声援を送った。

そもそも、この手づくりチームのテーマソング「幕末カイダンジ(快男児)」は、エッセイスト渡辺瑠海さんの作詞である。それにシンセサイザー奏者で作曲家の西村直記さんが曲をつけた。今回、堀内佳さんは、別の場所でたまたまこの歌を聞き、いちずに歌いたくなったという。根っからの「龍馬好き」の血が騒ぎ「歌いたい!」と自主参加してくれたわけである。祭りのあとの熱気冷めやらぬ頃、佳さんにその思いを聞いた。

**幕末カイダンジ (快男児)**

よつちよれよ よつちよれよ  
うわさの土佐の坂本は  
日本を渡るカイダンジ  
敵さえ味方に変えるやつ  
太い心を持ったやつ  
涼しい顔して笑うても  
命をかけた世直しよ  
その盆に舟浮かべ  
ぐっと一息飲み干して  
日本の夜明け見てみるか  
それをほんとにやりおった  
まことあいつはカイダンジ  
げに幕末のカイダンジ

よつちよれよ よつちよれよ  
もうすぐ明日が見えるきに  
よつちよれよ よつちよれよ  
ぶんどきばつてゆけばよい  
うらが惚れた男やき  
ずつとお側に居ますきに  
よつちよれよ よつちよれよ  
よつちよれよ よつちよれよ  
よつちよれよ

よつちよれよ よつちよれよ  
うわさの土佐の坂本は  
世界に乗り出すカイダンジ  
こじやんと太い男ぜよ  
坂本龍馬はカイダンジ  
言つちいかんちや  
おらんく池にやあ  
潮吹くクジラが泳ぎよる  
ヨサコイ ヨサコイ



出会いは宝物

今年は今まで以上にチームが結束した感じなんです。まさかブ口の堀内佳さんが参加してくださるなんて思ってもいなかっただので、びつくり。ありがたうございました。こちらこそ、「ありがたうございしました」ですよ。とにかく楽しかったですねえ。先輩ボーカルのお二人、合の手を入れてくれる渡辺瑠海さん、なんか以前からの仲間のノリで龍馬は、「出会いの達人」のあだ名がありますけど、出会いって宝物ですね。

「幕末カイダンジ」の魅力  
佳さんの申し出に館長もちよつと興奮気味でしたよ(笑)。「あの堀内佳さんが龍馬プロジェクトで歌いたいと言ってくれよう」とさほど佳さんの活躍は皆知っていません。

森(健志郎) 館長が中心になってやりゆうこのチームに、どんな人たちが集まってる、どんな踊りで龍馬を表現しているのか興味がありました。まあ、僕は目が見えんですけどね。

が伝わってくるが、何とも言えない愉快な楽しさでもあります。か。

佳さんが「桂浜・龍馬プロジェクトぜよ!」チームに参加したいと思った直接の動機は?

今年の3月です、和霊神社(高知市神田)の脱藩祭で、僕はライブをしました。そのときこのチームが踊っていて、初めて「幕末カイダンジ」を聞いたんです。耳へ飛び込んできたんです。「これ、えい、やん!」。この歌を歌いたいと思って、すぐに森館長のフェイスブックにメッセージを送ったんです。一緒に歌わせてくれませんか?」と。

すると、館長からすぐさま「OK」と返事が来た。「やったー」と気合が入りましたね。それに、もともといる龍馬発信をする龍馬記念館に龍馬ファンとしての興味をもっていました。

龍馬と同じシンプルな生き方  
敵さえ味方に変える。「幕末カイダンジ」にある歌詞と同じ言葉ですね(笑)。佳さんにとって龍

前田 由紀枝  
現代龍馬学会理事  
高知県立坂本龍馬記念館学芸課長

療生活は5歳から20歳まで続きました。やご二人暮らしできたときはうれしかったねえ。孤独というものは人よりも、大勢の中の孤独が辛いんですよ。思春期を8畳間の5人部屋で過ごすのは異常なことですよ。そのころの僕は、誰にも負けたくなかった。とにかく一番でいたかった。だから勉強もスポーツも頑張った。知識武装していたから、殺気立っていたと思いますよ。

しかし、僕は音楽や仲間と出会うことができたおかげで、裸になれば相手も裸になるということが分かった。敵をつくるのではなく、敵さえ味方に変える「わけです。龍馬と仲間なよな。

目の見えない僕には当たり前というものが分からない。当たり前というものは難しいことです。

お母さんを亡くした1か月後悪性リンパ腫が見つかった。それを超え、今、元気に活躍する佳さんだからこそ、シンプルな生き方という言葉に力がある。当たり前前年を頼むきね!

堀内 佳 (ほりうち けい)

シンガーソングライター  
昭和36(1961)年高知県四万十市生まれ。小学校6年のとき独学でギターを習得。高校時代に音楽活動を始めた。県立盲学校卒業後、病院勤務を経て、36歳でプロミュージシャンに。年間60〜70回のライブを行い、RKC高知放送のラジオパーソナリティ歴は25年になる。著書「もーもの歌たね」(南の風社)は、第57回高知県出版文化賞受賞。



# 「国家は文学でできている」

宮川 禎一

「文学部不要論」を聞いたことがあるだろうか？今年六月に文部科学省から国立大学改革問題に関して「実用学問が優先であり、経済に役立つ人材の養成を第一とし、文学部は廃止を含めて検討すべし」との方針が示されたのだ。国立大学文学部出身の筆者には聞き捨てならない話である。

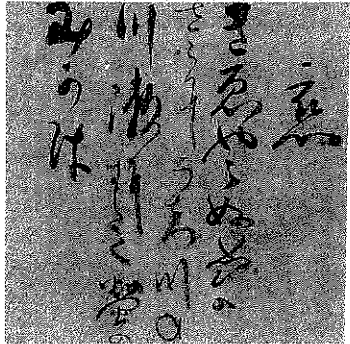
実利か趣味かの話なのであろうか。国家に役立つ人材を国費で育てることが肝要で、文学部で考古学や平安時代史などを研究する学生は日本国には無用との考えなのだろう。

これに対して、「いやいや文学を含む人文科学の考え方は自然科学や社会科学の根底になるもので決して無用ではありません」という文学部擁護論を目にするのだが、そんな謙虚な物言いで「切り捨てないで下さい」と裾にすがるのもどうかと思う。

あえて言わせてもらおうならば、この世の様々な学問の中で「天文学」と「文学」とが最も上位の学問なのだ。遠い銀河の果ての星々がいかにかに生まれて栄え衰えていくのかの科学的研究と芭蕉の「荒海や佐渡によこたふ天の河」の叙情性の中で最上な問である。それに比べれば結果お金が儲かれば良い経済学や基本的な人間

を信用しない法学などはかなり低位のジャンルである。もつと言うならば、人間は文学なしでは生きられないし、国家は憲法や軍勢力ではなくて文学で守られているのだ。「源氏物語」や「奥の細道」や「龍馬がゆく」や「IQ84」を読む者がいなければ日本もないのである。現在の世界情勢を見わたせば諸外国は「空虚な国家を文学で満たす作業」に汲々としていることが分かる。一方、日本の文部科学省は国家に役立つ学問か否かという視点で文学部を廃止に追い込もうとしているが、それが亡国への第一歩であることに全く気付いていないのである。ただし紫式部も松尾芭蕉も国立大学文学部には行っていないのである。

(前回、私の亡父が宇佐八幡宮で薄儀を見たとき書いたが、手を尽くして調べると史実ではないらしい。なぜ父がそう言い、筆者がそう記憶したのか、不思議である)



「坂本龍馬自筆の和歌」(京博蔵)  
「恋き糸やらぬ思ひの さらしうち  
川の 川瀬に すだく虫の みかは」

## コラム・龍馬のこと

### 「島で出会った“龍馬”」

小林 幸代

東京から160キロの孤島、新島で坂本龍馬の名を見付けた時は本当に驚いてしまった。島の博物館によると土方歳三戦死後に最後の新撰組隊長を命じられた相馬主殿は、龍馬暗殺の嫌疑で取り調べを受け、結局、終身刑として新島に流された。はっきりとした罪名は不明だが島の流人帳にその名が記されている。笠間藩。28歳。

流人の中には教養の高い人もいて、相馬のその一人であり、多くの島民に学問を教え、慕われたという。2年後に赦免されるが、子弟との別れに臨み和歌を詠んだ。それを書いた柱が残っている。

「さながらにそみしわが身はわかるとも 硯の海の深き心ぞ」

せっかく親しくなったのに私は別れることになってしまった。けれど学問で結ばれた皆さんの深い心はいつまでも忘れない…そんな意味である。

私は16年前、新島に教員として赴任した(今はそのすぐ隣の式根島にいる)。だから、こんな歌を残した相馬に魅かれるものがある。私は龍馬が好きだけれど、龍馬に繋がる若者達にも好意的だ。だって、考えや方法は違っても皆、あの激動の時代、何かしようと悩みもがき、行動した若者なのだ。

いよいよ18歳選挙権が決まり、たった二人の島の中学三年生にその話を向けると、「ちゃんと投票できるかなあ?」と大いに緊張し不安な顔をした。(おいおい。大丈夫?幕末ではね…)と言いたい所だったが、その気持ちも理解できる。今後、学校でもそれについて学ぶ時間が持たれていくだろう。これからの日本を担う若者達。宜しく頼む。

## “話してみるかよ”

### 「吉村虎太郎との出会い」

イラストレーター 楠本 剛

高知県 津野町教育委員会様からのご依頼で作成した吉村虎太郎の絵本が、この夏、ようやく完成した。吉村虎太郎は、倒幕運動の先駆けとして天誅(忠)組を結成し、その後、わずか一ヶ月余りで戦死。幕末史の中で見れば、活躍した期間はあまりにも短い。

2年前の天誅組結成150年の折に奈良県東吉野村を訪れ、天誅組ゆかりの史跡を案内していただいた。山林や町並みもほぼ当時のままで、彼らが駆け巡ったその足跡を追うごとに、壮絶な情景が目につく。「追いつめられても、もはや志を貫くしかない。我々はここで絶えることになろうとも、後に続くであろう同志たちに志を託そう。」…虎太郎たちの想いが痛いぐらいに心に刺さる。

私たちが知る虎太郎は、決起にはやる草莽の志士としての印象が強いが、今回の絵本は、地元津野町の子供たちに向けて、虎太郎が故郷土佐でどんな環境で育ち、いかにして新しい国を作ろうとする青年に成長していったか、を物語る内容だ。幼い頃から勉学に勤しみ、庄屋として地元各地のお百姓さんのために活躍したその生き様に触れ、決して、ただ決起にはやるだけの志士ではないということ、子供たちはもちろん、これから幕末に興味を持つ人々にも知っていたければ、と思う。



高知県立坂本龍馬記念館・現代龍馬学会  
〒781-0262 高知市浦戸城山 830

TEL (088) 841-0001 FAX (088) 841-0015  
mail gendai-ryoma@kochi-bunkazaidan.or.jp